

平成29年度事業報告

<要 旨>

定款を改正し、初となる物品販売（オリジナルクリアファイル・ボールペン・不織布バッグ）に着手した。情報誌『小さな親切』やWEBサイトを通じて広くピーアールしたほか、会員には会費請求にあわせてチラシを同封した。販売価格が低額なことから少額の収益ではあったが、運動を永続させるための重要な取り組みの第一歩となった。

また、青少年すこやか育成事業で幼児教育プログラムの開発に向けてのヒアリング調査を行い、幼児期からの豊かな心づくりに取り組む足がかりを築いたことは大きな成果であった。

事業については「運動方針」と「重点活動」に則して実施。その活動概況を報告する。

1. 平成29年度運動方針

日本の美風の「蘇生」と「新生」

「蘇生」として実行章受章者へのアンケート、「新生」として収益事業第一弾となる物品販売を行った。

「小さな親切」運動を全国区へ

「小さな親切」運動の仲間づくりを目指し、問い合わせや書籍・紙芝居の注文等には参考資料等を提示するなど広報的な対応を心がける一方、取材や訪問先では運動のピーアールを積極的に行った。

2. 平成29年度重点活動

1) 「小さな親切」実行章

掲げた三つの目標<①作文コンクールの応募作品の中から“わたしのした「小さな親切」”を書いた児童生徒に実行章を贈呈、②警察官に関する推薦の促進、③実行章受章者のフォローアップ>を全て実施した。

2) 第42回「小さな親切」作文コンクール

これまで応募のなかった地域の教育委員会に応募要項を送付し働きかけた結果、複数の自治体から初めての応募が実現した。

【公益目的事業1】

1. 「小さな親切」実行章贈呈事業

- 平成29年度の実行章贈呈総数は60,126名で、実行章贈呈者数累計は5,860,445名。
- 三つの目標に取り組む成果をあげた。

- 1) 青少年の豊かな心をほめて育てる
作文コンクールで入賞・入選を逸した作品の中から、「わたしのした」親切をテーマに、審査員の心を打つ作文を書いた児童生徒（個人9名、1団体）に、「小さな親切」実行章を贈呈。表彰は全国表彰式の席上で行った。また作文コンクールを開催している地域組織でも同様に、親切をした児童生徒の作文から、特に感動的な作品の筆者に実行章が贈呈された。
- 2) 警察官による一般市民の親切に対する推薦を促進
地域組織から警察署へ、市民の推薦を働きかけた結果、岐阜県内、山形県などからの推薦が増加した。
- 3) 実行章受章者のフォローアップ
当該年度受章者（個人・団体）へのアンケートは、贈呈を行う地域組織及び中央本部が配布。また、過去5年分の受章者へは中央本部が郵送し、アンケート回答を取りまとめた。

〈アンケート結果概要〉

a) 当該年度受章者アンケート

調査対象…当該年度受章された方

（回収数：個人 ①大人：72、②子ども：66／団体 ③大人：56、④子ども：47）

- ・「小さな親切」運動自体の認知度は高い。
- ・地道な活動が評価されたということで、受章を喜び、モチベーションの向上につながると考えている方が大変多い。
- ・今後自らが実行章の推薦を行う意欲はあるものの、個人情報等の問題で、現時点では消極的であることがわかった。

b) 過去受章者アンケート

調査対象…平成24年～28年に受章された個人・大人 510件

（宛先不明等の未着36件、回収数：83件、回収率：17.5%）

- ・受章後に気持ちや行動の変化はないと回答した方でも、評価されること自体を喜んでいる方は多い。
- ・推薦行動を阻害しているのは、親切な人を見つけること以外に、推薦に必要な情報の収集や、その取り扱い、また推薦文を考えることなどであった。
- ・推薦内容や手順を簡素化するなど、推薦者の立場にたった方法を検討する必要があると考えられる。

なおアンケートをお送りしたことで、受章者からの実行章推薦や資料請求、寄附が寄せられた。

- 実行章バッジ販売数 2,678個（大人用524個・子ども用2,154個）
購入者内訳：11県本部、16支部、その他学校、会員、推薦団体、推薦者、受章者本人

2. 第42回「小さな親切」作文コンクール

- 応募総数は47,024編で、昨年比505編減。応募学校数も17校減少した。要因としては、全国的な児童生徒数及び学校数の減少による。
- 県別応募者総数上位は、1位：静岡県（6,334編）、2位：福井県（5,752編）、3位：長野県（5,701編）、4位：千葉県（5,587編）5位：福岡県（4,277編）であった。
- 当該年度は、地域組織のない県や市の教育委員会に応募呼びかけを行った結果、福岡市から12校・242編、その他北海道札幌市、秋田県横手市、千葉県野田市・木更津市などの学校から新規の応募が寄せられた。この成果をふまえ、今後も応募呼びかけの拡大につとめたい。

- 作文の内容については、「ヘアドネーション」（子ども用医療ウィッグを作るための髪の毛の寄附）や豪雨被災地でのボランティア体験などをテーマとした作文が増加。児童生徒たちの寄附活動やボランティア活動への参加意識の高まりが感じられた。
- WEB サイトで、入賞作品からみる子どもたちの生活環境、審査のポイント等の情報を発信したところ、昨年の同時期より閲覧数が増加。また、さらに運動全般を知ってもらおうべく、作文コンクールから他の活動の閲覧につながる工夫を行い、他ページへの誘導を図った。

[実施概要]

後援	内閣府 文部科学省 NHK 毎日新聞社
協賛	カシオ計算機株式会社 株式会社サクラクレパス
テーマ	「小さな親切」ー私のした・うけた・みた・できなかった親切ー
特別テーマ	伝えたい日本のこころ ～外国の方との出会いを通して～
応募資格	小学生・中学生（小中学生と同じ学齢のものを含む）
応募字数	400字詰原稿用紙3枚（1200字）以内
締め切り	9月22日（金）必着
審査	第1次審査：9月25日（月）～10月2日（月） 審査員14名 第2次審査：10月9日（月） 審査員11名 ※第1次、2次とも審査員は元小中学校長ほか 作文審査員審査会：10月24日（火） 審査員：内閣府 大臣官房総務課 管理室長 難波康修 文部科学省 初等中等教育局教育課程課 教科調査官 浅見哲也 毎日新聞社 事業本部総務・企画部 事業企画委員 山之内郁治 童話作家 新野雄彦 公益社団法人「小さな親切」運動本部 専務理事 山橋由貴子
応募総数	47,024編 内訳：小学生 799校 12,251編 中学生 725校 34,773編
入賞・入選者数	130名 内訳：内閣総理大臣賞1名・文部科学大臣賞1名・運動本部賞2名・特別優秀賞6名・優秀賞20名・入選100名
副賞	カシオ計算機（株）：カメラ、電子辞書、電波時計各種 （株）サクラクレパス：蛍光ペン 運動本部：メダル、本部オリジナル文具
要項・入賞発表	毎日新聞 / 5月18日（木） 11月16日（木） 教育新聞 / 6月26日（月） 12月7日（木） 情報誌『小さな親切』春号・平成30年新春号、WEBサイト
表彰式	11月25日（土） 全国表彰式席上 参加者234名 / 入賞児童生徒71名・保護者163名

[作製物]

ポスター	5,500部 応募要項 8,500部
------	--------------------

3. 青少年すこやか育成事業 < (公財) JKA 補助事業 >

- 昨年度、現地の受け入れ態勢が整わず実施できなかった熊本地震の被災地域で、工作教室と声優による紙芝居上演を実施した。
- 地震があると、未だに恐怖を感じる子どもたちも多い中、「工作教室」では、捨てたらごみとなる廃材を利用して車輪のおもちゃ“ゴロゴロ”を作製。さらにこれを使った遊び方を考案してもらうなど、想像力と創造力を発揮する楽しさを知ってもらった。
- 「声優による紙芝居上演」は、テレビでおなじみの人気声優が声の芝居を届けるもので、子どもたちは、あこがれの声優が繰り広げる、迫力の演技を目の当たりにして大感激であった。子どもたちの心が明るくなると、校長にも高い評価を受けた。
- 被災地以外の学校で、大地震や津波による被害とその後の復興を考えてもらおうと、オリジナル紙芝居を用いて小学校の道徳の時間に実施している「紙芝居授業」は、子どもたちの心の育成に貢献。また道徳の教科化を前に、教師からの関心を集めた。
- 様々な種別の幼児教育の現場（公立・私立の幼稚園、保育園長・教諭、保育士、幼児教育研究者など）でヒアリング調査を行った。この結果をもとに、幼児の豊かな心づくりに寄与するような、幼児向けプログラムの制作に取り組む。完成は31年度を目指す。

[実施概要]

1) 被災地域向け

工作教室 in 熊本県

と き	平成 29 年 9 月 7 日 (木)
と ころ	山鹿市立鹿北小学校 参加者：1、2 年 36 名 6 年 27 名
テ ー マ	「廃材を利用したおもちゃ作り」
講 師	有賀忍 (板絵画家・江戸川大学こどもコミュニケーション学科客員教授)
準 講 師	木村事務局次長 五味職員
参 観 者	熊本県鹿北支部

声優による紙芝居 in 熊本県

と き	平成 29 年 9 月 19 日 (火)
と ころ	熊本市立大江小学校 参加者：1・2・3 年生計 301 名
上演作品	「きつねとごんろく」「おねぼうなじゃがいもさん」「やさしい ころろ」
演 者	永澤菜教 (声優 / 「ちびまる子ちゃん」ブー太郎役他)
補 助	木村事務局次長 五味職員
参 観 者	熊本県本部

2) 被災地域外向け

『まっりのひ』を用いた紙芝居授業の実施

講 師	馬場喜久雄 (全国小学校道徳教育研究会顧問) 宮島 盛隆 (白百合女子大学講師)
-----	---

実 施 校

平成 29 年

6 月 20 日 (火)	福井県越前町立織田小学校 参加者：2 年生 25 名 3 年生 27 名 5 年生 33 名 講 師：宮島盛隆 準講師：五味職員 参観者：福井県本部・支部 23 名 他校教員 7 校 12 名
12 月 13 日 (水)	山形県新庄市立新庄小学校 参加者：4 年生 63 名 講 師：馬場喜久雄 準講師：五味職員 参観者：山形県本部・支部

14日(木) 山形県寒河江市立南部小学校

参加者：4年生42名

講師：馬場喜久雄 準講師：五味職員

参観者：山形県本部・支部

寒河江市教育委員会 学校教育課指導推進室長他

平成30年

2月5日(月) 東京都江東きっずクラブ四大

参加者：1・2年生27名 3・4年生16名

講師：馬場喜久雄 準講師：五味職員

教員向け事後研究会の実施 / 紙芝居授業終了後

12月14日(木) 山形県寒河江市立南部小学校

参加者：教員15名、市教育委員会2名

山形県本部・寒河江支部5名

3) 幼児教育プログラム制作に向けてのヒアリング調査

幼児教育研究者、幼稚園、保育園など7箇所19名にヒアリング調査を実施。

平成29年

8月23日(水) 杉並区立高井戸西子供園 五十嵐美緒子園長 / 東京都

9月2日(土) 板橋区立高島幼稚園 井上朋子教諭 / 東京都

8日(金) 学校法人夏野学園杉並幼稚園 宮坂杏子園長他10名 / 東京都

14日(木) 昭和女子大学 幼児教育学 横山文樹教授 / 東京都

専修大学松戸幼稚園 徳山斉園長 / 千葉県

27日(水) 第二所沢おひさま保育園 津留崎正恵園長他2名 / 埼玉県

10月18日(水) 武蔵野大学 教育学部 箕輪潤子准教授 / 東京都

4) 専用WEBサイトを通じた教育活動

「災害から学ぶ」をテーマに岩手県でインタビューを行い、その内容を教育専用サイト『てらこあん』で紹介した。

平成29年

9月25日(月) 岩手大学 地域防災研究センター 山崎友子教授

26日(火) 岩手県宮古市立宮古小学校 青笹光一校長

また、海外からの反応を受け、紙芝居『つなみのひ』『まつりのひ』の英語版動画を公開。

4. みんなつながる、トモダチ作戦事業

- 活動グッズの提供数を140団体と想定していたが、情報誌『小さな親切』やWEBサイトでグッズ紹介を行ったところ、申し込みが相次ぎ、活動グッズの不足が予想されたため、9月の理事会にはかり、たすき5,000本・のぼり1,500本の追加作製を行った。
- 長年の会員校である専修大学玉名高等学校(熊本県)が、生徒会であいさつ運動の推進を決定。幼稚園、小中学校からさらに高等学校へとあいさつ運動の輪が広がってきた。

[実施概要]

1) あいさつ推進グッズ・活動事例集の提供

対 象 保育園、幼稚園、学校、企業、団体

提供箇所	218箇所 (学校205、幼稚園1、企業2、団体9、組織1 / 33都道府県で展開)
提供グッズ	たすき 2,387本 のぼり 681本(ポール、スタンドなし) ポスター 508枚×2種 活動事例集 241冊 ※1団体につき、たすき10本、のぼり3本、ポスター2種・4枚の提供を基本とした。 ※既存実施校からの追加注文分は上記に含まず。

2) 活動事例の紹介

- ①島根県 雲南建設株式会社 / カナツ技建工業株式会社
電話取材：平成29年6月14日(水)
掲載：情報誌『小さな親切』夏号
- ②静岡県 富士市立須津中学校
訪問：平成29年9月27日
掲載：情報誌『小さな親切』秋号

5. ことばの魔法プロジェクト

第33回「小さな親切」はがきキャンペーン

- 総数は2,328編で、昨年比335編減。要因は、全校での取り組みが単学年となるなど会員校の応募が減少したことによる。一方、一般応募者は130編増加した。
- 公募ガイドで複数回告知を行った結果、若い層(30代・40代)からの応募が増加したほか、岩手・福井を除く全県から応募が寄せられた。また、読売新聞社からの提案で、初めてNIE実践指定校(学校などで新聞を教材として活用)に応募要項を送付したところ、応募があり1名が入選をはたした。
- 6月11日(日)・18日(日)の2週にわたり、はがきキャンペーンの作品(『胸が熱くなるほどいい話』『涙がとまらないすてきな物語』より計4作品)がAbemaTV『照英を泣かそう』で放映された。

[実施概要]

後援	日本郵便株式会社 読売新聞社
協賛	株式会社河出書房新社
テーマ	1) 心から伝えたい“ありがとう” 2) 「やだな！」自分だったら…
応募対象	子どもから大人まで
応募方法	はがき、専用フォーム、メールのいずれかで応募(600字以内)
締め切り	9月7日(木)当日消印有効
審査会	10月3日(火) 審査員：日本郵便株式会社 切手・葉書担当室担当部長 成田喜浩 読売新聞東京本社 編集局次長 吉岡康生 株式会社河出書房新社 代表取締役社長 小野寺優 公益社団法人「小さな親切」運動本部 専務理事 山橋由貴子
入賞・入選者	25名 内訳 / 大賞 日本郵便賞1名・運動本部賞1名・読売新聞社賞1名 河出書房新社賞1名・審査員特別賞1名・入選20名

副賞	運動本部：文房具、書籍 日本郵便株式会社：切手シートほか 読売新聞社：図書カード 株式会社河出書房新社：書籍
要項・入賞発表	読売新聞 / 6月9日(金)・11月15日(水) レターパーク5月号・公募ガイド7・9・翌3月号 運動本部WEBサイト・情報誌『小さな親切』春号・新春号
表彰式	平成29年11月25日(土) 全国表彰式席上 出席者24名(入賞者12名・家族12名)

[作製物]

応募要項 11,000部

6. 平成29年度「小さな親切」運動全国表彰式

- 受賞者への事前案内パンフをはじめ座席の完全レイアウト、席指定カードと席札の色の統一、運営にご協力いただく地域組織への役割説明書など事前準備を徹底し、スムーズな式典運営を行えた。
- 参加者は、運動への高まりを受け過去最多の370名となった。

[実施概要]

後援	内閣府 文部科学省 NHK
と き	平成29年11月25日(土) 12:30~15:30
と ころ	東京・霞が関ビル35階 東海大学校友会館
参 加 者	約370名
プログラム	司会 高山哲哉 (NHK アナウンサー)
	主催者挨拶 代表 鈴木恒夫
	来賓挨拶 内閣府大臣官房総務課管理室室長 難波康修
	表 彰
	「小さな親切」運動推進功労者内閣官房長官賞 / 5名 坪田清則 (85) 福井県本部代表 ・高橋義寛 (82) 宮城県本部前副代表 江川良弘 (80) 鹿児島県財部支部代表 ・川内谷健三郎 (77) 北海道函館支部理事 大本孝希 (72) 広島県三原市部事務局長
	「小さな親切」運動大賞 / 1団体 「小さな親切」運動青森県本部
	「小さな親切」運動賞 / 3団体・個人3名 寒河江「小さな親切」の会 (山形)、社会医療法人栗山会飯田病院 (長野)、 杵築市山香町山浦分会 (大分)、長島以与子 (64) 静岡県本部前事務局次長、 小林道子 (72) 埼玉県川口支部実行委員、武田克弘 (75) 島根県駅前コミュニ ティー前代表
	「小さな親切」実行章 / 9名・1団体
	第33回「小さな親切」運動はがきキャンペーン
	第42回「小さな親切」運動作文コンクール
	作品朗読 (総理大臣賞・文部科学大臣賞)
	アトラクション / 『耳と心で感じるリーディングドラマ』 難波圭一さんとケッケコーポレーション所属の声優さん

7. 『小さな親切』誌の刊行 <(一財)日本宝くじ協会助成事業>

- 「小さな親切」八か条を職員が再現した企画やコラムは、親しみやすいと好評価を得た。
- 地域組織の出張に併せて取材スケジュールを組み、旅費交通費を削減したほか、原稿作成の内製化をはかり経費削減を行った。

[実施概要]

発行	年4回(春号5月・夏号8月・秋号11月・新春号1月)の季刊発行
発行部数	年間延べ132,000部
主な取材先	春号5月:カシオ計算機株式会社(東京)、佐賀市立嘉瀬小学校(佐賀)、 札幌市立大倉山小学校(北海道)、布施学校組合立布施小学校(千葉県) 夏号8月:株式会社竹正工務店・竹内正弘(青森)、雲南建設株式会社(鳥取)、カナツ技建工業株式会社(鳥取)、馬場喜久雄(東京)、越前町立織田小学校(福井) 秋号11月:長岡市立深沢小学校(新潟)、富士市立須津中学校(静岡)、セコムジャスティック株式会社東京本部・長村由香(東京) 新春号1月:県立丹生高等学校(福井)

8. 地域の輪・和・環プロジェクト(車椅子寄贈運動)

- 中央本部の車椅子寄贈は当該年度をもって終了。次年度からは地域組織が行う車椅子寄贈のサポート(車椅子斡旋)のみを行う。
- 武蔵野市支部(東京)が30周年記念事業として車椅子15台を地域へ寄贈するなど、県本部・支部では合計67台の車椅子を自費購入し各地の施設に寄贈した。

[実施概要]

寄贈台数	35台
寄贈先	全国およそ35カ所の社会福祉施設等
種類	①BAL-1(アルミ製) シートカラー:ブルー 自走式/介助ブレーキ(ドラム式)付/背折れタイプ ②希望組織のみ、車椅子に有料でプレート1枚貼付 文面:「地域の輪・和・環プロジェクト」 公益社団法人「小さな親切」運動本部 一道府県本部・市町村支部一
価格	車椅子:19,000円(非課税) プレート:1,900円(非課税)
展開方法	①昨年度2月、各地域組織への車椅子割り当て台数を決定。自費購入を希望する場合は、5月19日(金)までに中央本部へ申し込む。 ②地域組織は5月19日(金)までに寄贈先を決定し、中央本へ連絡。
発注先	協和医科器械株式会社
贈呈期間	平成29年度10月2日(月)~10月31日(火)
活動報告	車椅子贈呈後、所定の報告用紙で随時報告書(新聞記事や写真を添付)を提出。活動は、WEBサイトや情報誌『小さな親切』で紹介。

9. 日本列島クリーン大作戦(35回目)

- 参加者から、「ごみの量が年々少なくなり、美しく住みよい町づくりへの意識の高まりが感じられた」「清掃時に、散歩中の方々から声をかけられ、地域貢献となっていることを実感

できた」などの声が寄せられた。

- 個々で活動している学校や企業の報告書を取りまとめ、提出してくれる地域組織が増加。
- これまで JT の協賛金は全てごみ袋の作製に充てられていたが、当該年度からは発送時の配送料も含まれることになった。よって、ごみ袋の提供数が減少していく見通し。

[実施概要]

後 援	内閣府、文部科学省、総務省、農林水産省、経済産業省、国土交通省、環境省、警察庁
協 賛	日本たばこ産業株式会社、コ・コーラ協会、(公社)食品容器環境美化協会、スチール缶リサイクル協会、(公財)日本環境協会、日本石鹼洗剤工業会
スローガン	美しい日本、美しい心
期 間	平成 29 年 4 月 1 日 (土) ～ 平成 30 年 2 月 28 日 (水)
ご み 袋	172,795 部 <協力：日本たばこ産業株式会社 (JT) > 内訳／可燃用 300 45,025 部・不燃用 300 52,070 部・手提用 120 75,700 部
参加者数	約 30 万人 (延べ人数)

[作製物]

ポスター	1,700 部
------	---------

10. 日本列島コスモス作戦 (29 回目) <協力：タキイ種苗 (株) >

- 当該年度より種子の発注先をタキイ種苗 (株) に変更し、コスモス種子袋及び種子の斡旋を行った。
- タキイ種苗の的確且つ丁寧な対応により、問題なく発送を終えた。また、同社より不測の事態に備えて予備の種子袋 100 袋の提供を受けた。
- コスモス種子の購入先より、「2 年続けてコスモスが開花しなかった」「台風の影響を受けやすい」「コスモスは栽培が難しい」との声が寄せられたことから、運動にふさわしいコスモス以外の花の種子の検討に着手した。

[実施概要]

発 注 数	種子袋	100,740 袋
	種子 (dℓ・ℓ)	130 dℓ ・ 40ℓ
価 格	種子袋	1 袋 11.9 円
	種子	1 dℓ 523 円 ・ 1 ℓ 5,225 円
発 送	4 月中旬	
代金請求と入金	中央本部から 5 月に請求し、同月末日までに入金。	

11. 使用済み切手等寄贈

- 海外支援団体に直接送付してもらったが、個人からのものは中央本部で取りまとめた。
寄 贈 先 (公財) ジョイセフ …使用済み切手
(公社) 日本キリスト教医療協力会 …使用済み切手
認定 NPO 法人日本国際ボランティアセンター …使用済みプリペイドカード
- 収集量の概算
使用済み切手 約 157 キログラム 約 219,800 円
プリペイドカード 約 1 kg
※直接支援団体に送付されたものについては、収集量が不明のものがあるため、上記は一部。
※収集された切手等は収集家に買い取られ、資金化される。
- 使用済み切手協力者氏名を WEB サイトに掲載

協 力 者 地域組織 10 件、企業・団体 26 件、個人 23 件、匿名 2 件
(中央本部に送付されたもの、報告があったもののみ／延べ件数)

地域組織 (県本部・支部)					
山形県	酒田の会	宮城県	宮城県本部	熊本県	熊本県本部
企業・団体					
秋田県	鹿角市立十和田図書館	宮城県	遠藤海事事務所	埼玉県	ミドリ安全株式会社 埼玉支社
東京都	三省堂印刷株式会社	東京都	株式会社大矢建工	東京都	東京大学出版会 編集部
千葉県	新日本メンテナンス株式会社	岐阜県	株式会社松永製作所	奈良県	奈良県旅館・ホテル 生活衛生同業組合
大阪府	安藤忠雄建築研究所	大阪府	社会医療法人仙養会 北摂総合病院	大阪府	マーカス経営会計事務所
大阪府	医療法人拓海会 大阪キタホームケアクリニック	兵庫県	佐藤健宗法律事務所	岡山県	タチバナ工業株式会社
岡山県	有限会社岡建	山口県	株式会社日本セレモニー	長崎県	株式会社三喜工業
個 人					
北海道 1 名・岩手県 1 名・福島県 1 名・埼玉県 1 名・東京都 3 名・千葉県 5 名・神奈川県 1 名・三重県 1 名・ 奈良県 1 名・大阪府 1 名・岡山県 1 名・愛媛県 1 名・福岡県 1 名・長崎県 1 名・鹿児島県 1 名					

(順不同・敬称略)

12. その他

1) 各地域の親切運動支援

○ 地方活動助成費の交付

総 額 8,517,000 円 (平成 28 年度会費収入の 12%を 6 月に交付)

- 全国地方本部事務局長会議を開催。当該年度は、第 1 部：活動報告及び事業計画、第 2 部：各種活動に関する協力依頼と提案に続いて、第 3 部で 2 グループに分かれてのグループディスカッションを行った。

[実施概要]

と き	平成 30 年 2 月 16 日 (金) 13:00~16:30
と ころ	東京・ベルサール飯田橋駅前 2 階会議室
出 席 者	35 名 / 23 府県本部事務局長・事務局次長・事務局担当者 24 名 運動本部理事 5 名・事務局員 6 名

- 地域組織等からの要請を受け、各種会合への出席や講師派遣を行った。

[実施概要]

講 演	3 回
総会・つどい等	17 回

2) 各種パンフレット、ポスター等の作製

- パンフレット等は、地域組織へのアンケートを基に作製し経費削減に努めた。
- ポスター (2 種類) に使用したレンタルイラストには使用期限が設けられていたことが判明。使用期限後は、原則として掲示されているポスターを撤去することになった。今後は、デザイナーとポスターの掲示期間を話し合い、目的に合致したレンタルイラストを使用する。

八か条ポスター	2020 年 4 月 30 日まで掲示可
実行章ポスター	2018 年 4 月 30 日まで掲示可

[実施概要]

- 1) 基本資料
基本パンフレット 1,500部 ・ 実行章パンフレット 2,000部
三つ折りしおり 10,000部 ・ 八か条カード 30,000部
- 2) 作品集 (第42回作文コンクール・第33回はがきキャンペーン合併版)
タイトル:『しあわせフワリ』 4,000部
- 3) 会員バッジ・会員楯
団体会員(大人)バッジ 5,000個

【収益事業】

1. はがきキャンペーン作品の書籍化

新規書籍の発行はなかったが、読売新聞社が全国の学童保育施設への寄贈図書として、書籍『胸が熱くなるいい話』を活用いただいたことから、3,000冊の増刷があり、388,800円の収益を得られた。

2. 「小さな親切」運動グッズの販売

- 定款を変更し、運動関連グッズの販売が可能となったことから、収益事業初となるオリジナル「ボールペン」「クリアファイル」「不織布バッグ」の販売に着手。地域組織では、各種コンクール参加賞や副賞として購入した。
- 会員や関係者宛てへの郵送物には、グッズ紹介チラシを同封しピーアールを行った。
- 会員特典を設け、会員及び地域組織には割引価格で販売した。

[実施概要]

ボールペン	@100円 (地域組織販売価格 @60円)
クリアファイル	@50円 (地域組織は送料のみ負担 <1箱200枚入/送料550円>)
不織布バッグ	@200円 (地域組織販売価格 @180円)

【その他事業】

1. 総会・役員会

1) 第7回社員総会

と き	平成29年6月2日(金) 14:00~16:00
と ころ	ベルサール飯田橋駅前 2階会議室
議 事	第1号議案 平成28年度事業報告 第2号議案 平成28年度決算報告

- 第3号議案 平成29年度事業計画（案）
- 第4号議案 平成29年度予算（案）
- 第5号議案 役員を選任（案）

2) 理事会

- 3 回 開 催： 第32回／平成29年5月18日(木) ・ 第33回／同9月22日(金)、
第34回／平成30年2月9日(金)
- 東京オリンピック・パラリンピック準備委員会 1回開催／平成30年2月9日(金)

2. エコキャップ収集運動

- 地域組織の自主事業として展開。

主な地域組織：福島県本部、京都府本部、山陰本部、北海道函館支部、広島県三原支部など

3. 心の国際交流

- 公益目的事業を終了し、中央本部の一般事業へ移行。
- 第31回理事会にて、WKM（世界親切運動）からの脱会を決定。平成29年10月6日付文書にて通知した。

【広報活動】

1. WEB サイトによる情報発信

- WEB サイト中、最も閲覧数の多い作文コンクール関連のコンテンツを充実させたほか、小中学生の保護者、教師向けコンテンツを作成し、他のページへの誘導をはかったことから、サイト全体の閲覧数が昨年度比34,000ほど増加した。
- 実行章やはがきキャンペーンページに加えて、運動概要、運動ネットワーク（地域組織）紹介ページ、法人会員紹介ページの閲覧が増えたことから、作文コンクールから運動全体に興味を広げることができた。

2. メディアへの情報提供

- 昨年度の運動本部及び全国の活動内容をとりまとめ、「小さな親切活動レポート2016」を発行し、ニュースレター（中央本部の取り組みや無料提供が可能な各種資料を紹介）などと共に、中央紙、地域組織のある道府県の地方紙等に発送したところ、地域組織が開催する式典の取材に結びついた。
- 地域組織では活動レポートを、会員への活動周知にも役立つと総会や各種式典の資料として活用。平成30年度は、6月初めの総会に間に合わせてほしいとの要望も寄せられている。

【寄 附】

寄附の対象は、概ね表彰活動事業や親切運動全般。当該年度は、実行章受章者からの寄附も微増した。

寄附件数： 37 件

金 額： 412,874 円 ※「平成29年度寄附金及び事業協賛金一覧」を2-13頁に掲載。

【災害見舞金】

当該年度は、災害見舞金の募集は行わなかった。

平成 29 年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第 34 条第 3 項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成しない。

その他 会員数・地域組織数

会員の概況

	会員区分	平成 30 年 3 月 31 日現在		平成 29 年 3 月 31 日現在	
1	個人正会員	112 名		119 名	
2	個人寄附会員	15 名		14 名	
3	法人正会員	32 社		33 社	
4	法人寄附会員	18 社		17 社	
5	個人会員	1,289 名		1,621 名	
6	地方賛助会員	6,967 名		7,120 名	
7	団体会員	112,386 名		119,219 名	
8	学校会員	96 校	59,542 名	96 校	58,393 名
	総会員数	180,361 名		186,536 名	

地域組織 33 道府県本部 ・ 139 市町村支部